



課題解決に向けて 代替ねぐらづくりが進行中!



長年の調査から、たくさんのツルが四万十市に飛来しても、主なねぐらとなっている四万十川の砂州に人が立ち入ることなどによって飛び去ってしまい、越冬する数はとても少ないことがわかってきました。
このため、四万十川の砂州以外のねぐらを用意する国土交通省や民間の取り組みが進んでいます。

国土交通省～四万十川自然再生事業～

国土交通省中村河川国道事務所は、中筋川の中山箇所と間箇所に整備していた湿地を、ツルがより利用しやすい広いねぐらへと改良します。

令和4年度は中山箇所の工事に着手し、上流側を整備しました。令和5年度は下流側で工事を行い、ツルの飛来期までに広いねぐらに生まれ変わる予定です。

令和4年度の中山箇所の工事実施状況
※令和5年度は網掛けした部分の工事を行います



民間～四万十川流域生態系ネットワークの取り組み～

当会は、ツルの飛来期に水田に水を張ってねぐらにする取り組みを行っています。

令和3年度は江ノ村で、令和4年度は新たに江ノ村にもう1カ所、そして蕨岡、実崎を加えた計4カ所で実施しました。ツルを呼び寄せるためのデコイ(模型)も、ツルにそっくりの立体型デコイに加えて、簡易な平面型デコイも置いてみるなど、様々なチャレンジをしています。

実際は、うまく水をためることができなったり、雨でデコイが傾いたり試行錯誤の連続でしたが、表紙でもお伝えしたように、ナベヅル2羽が江ノ村の水田をねぐらとして利用してくれました。



水田に水をためた様子

ツルを見る時の お願い



ツルは非常に警戒心が強い鳥ですので、200～300m離れた場所から双眼鏡などを使って観察して下さい。写真撮影は望遠レンズを使いましょう。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel:0880-34-4333 / fax:0880-34-1451
mail:nakacci2@mocha.ocn.ne.jp



3年ぶりにツルが越冬!

令和4年度の初飛来は10月20日のナベヅル2羽と異例の早さでしたが、この2羽は愛媛県西条市と四万十市とを行き来し、10月26日に飛び立った後、いなくなっていました。その後、10月29日に1羽が確認されましたが、すぐに姿が見えなくなり、約2週間、音沙汰がない状態が続きました。

そんな中、11月13日の早朝、四万十市立東中筋小学校の子どもたちとデコイ(ツルの模型)を設置し、水を張っていた江ノ村の水田の自動撮影カメラにナベヅル1羽が写り、このツルの四万十暮らしが始まりました。12月15日にはもう1羽が合流。2羽はいつも一緒に行動し、1月10日をもって3年ぶりの越冬*となりました(2月10日現在も越冬中)。

また、令和2年度にナベヅルに非常によく似た立体型デコイに変えてから、3年連続でデコイを置いた水田にツルが飛来したこともうれしいニュースです。本年度は11月27日からずっとねぐらとして利用してくれています。

長年の調査結果から、四万十市ではねぐらの確保が課題となっているため、来年度からはデコイの数を増やし、ねぐらを新しく作っていく取り組みにより力を入れていきたいと考えているところです。

※越冬とは:四万十市では、12月から1月にわたり確認され、ひと月に1/3(10日間)以上の確認があった場合を「越冬」としています。



越冬した2羽(R4.12.22)。
日中、餌場から江ノ村のねぐらに戻ってきたところをキャッチ!
この後、羽づくろいや休憩をして過ごしていました



幡多地域では珍しい
ツクシガモも飛来!



餌場では落ち穂などをついばんでいます
(R4.12.17)



ねぐらでの様子(R5.1.11)。デコイの中央で、
頭を身体にのせて安心して寝ています
※黄丸:ナベヅル